

海・里・山を繋ぐ観光データ基盤構築と、地域自走型DXリーダー育成実証事業

現状及び課題、解決策と目指す姿

- 宮崎県日向東臼杵地域は、世界的サーフスポット「お倉ヶ浜」や世界農業遺産の山村文化といった多様な観光資源を有する一方で、観光動態や消費構造を把握するデータが不足し、事業者間での連携や送客が十分に行えていない。
- 観光施策の効果検証が困難で、データに基づくマーケティングが実施できていない。また、データ利活用を担うDX推進人材が不足している。
- 本事業では、宿泊・人流・消費データを統合した観光データ基盤とBIダッシュボードを構築し、行政・観光協会・事業者へ提供するとともに、伴走型研修を通じてDX推進人材を育成する。
- データに基づく誘客施策を地域全体で実行し、広域周遊と消費拡大を促進するとともに、インバウンドを含む誘客促進と観光収益が地域へ再投資される「地産地消型の観光経済循環」の確立を目指す。

事業概要

宿泊・人流・消費データを統合した観光データ基盤とダッシュボードを整備し、行政や事業者がデータに基づく誘客施策を実行できる環境を構築する。併せて伴走型研修により人材育成を行い、インバウンドを含む誘客促進と地域内に利益が循環する「地産地消型の観光経済循環」の確立を目指す。

取組地域：宮崎県日向市・東臼杵郡

コンソーシアム名：日向東臼杵地域観光データコンソーシアム

代表事業者：一般社団法人日向市観光協会

実証内容

- 観光データ収集基盤およびBIダッシュボードの構築
- データを活用した誘客施策の実証
- 観光DX推進リーダー育成のための伴走型研修

目標値

KGI 連携事業者(宿泊・物産)における「特定商品の消費額増加」(7%)

KPI 地域共通データを活用した施策実施件数(3件)

